

平成26年度 学力向上を図るための全体計画

【都の教育目標】
 ・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
 ・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
 ・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

【区の教育目標】
 子供たち一人一人の学ぶ目的を明らかにし、学習意欲を高め基礎的・基本的な知識および技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成。

《学校の教育目標》
 本校の教育は、日本国憲法・教育基本法・児童の権利に関する条約の理念と人権尊重の精神を基調に、これからの社会に主体的に対応し、国際的視野に立って進んで協調することのできる、心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成をめざす。このことを具現化するために、次の目標を設定する。

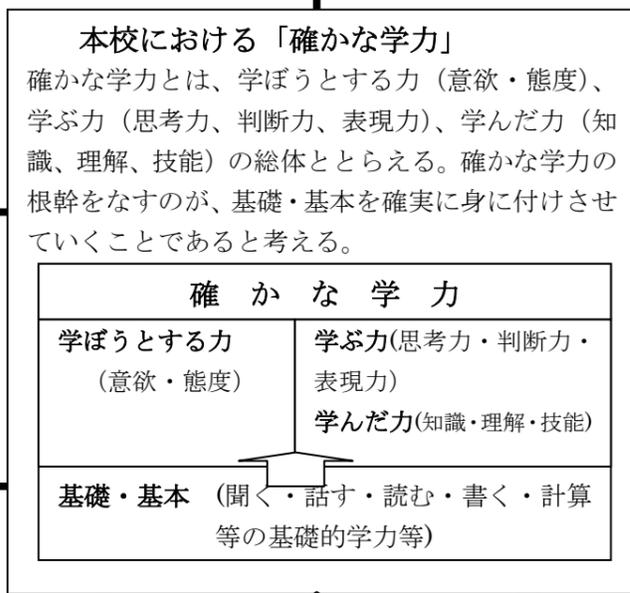
- たのしく学ぶ子
- はつらつと活動する子
- ともに歩む子

【学校や地域の実態】
【保護者の願い】
 ・学力の向上
 ・子供が楽しく安心して通える学校

【地域の願い】
 ・学校への期待や関心が高い。地域に開かれた学校の推進

【教師の願い】
 ・生命尊重 人権尊重
 ・基礎基本の学力の充実
 ・個性、能力の伸長

〔学校経営計画（学力向上にかかわる要点）〕
 中期経営目標 ○基礎・基本の力の定着や主体的に学ぶ力を育成する
 短期経営目標 ・生きて働く言語の力を育成する
 ・個に応じた学習方法を工夫する
 ・学習意欲を高め、学習習慣、学習規律を確立する



各教科の指導の重点
 ・指導方法の改善、工夫により基礎的、基本的内容を確実に身に付けさせる。

総合的な学習の時間
 ・自然環境や地域の教育力を生かした学習を工夫し、自ら課題を見付け、主体的・創造的に取り組む力、態度を育てる。

道徳教育の指導の重点
 ・生命、人権を尊重し、地域の一員として共生していく認識を深め、よりよく生きるための実践力を育成する。

特別活動の指導の重点
 ・集団の一員としての役割を自覚して好ましい人間関係を築くと共に、社会性の基礎をはぐくむ。

進路指導の重点
 ・興味関心、能力、適性を把握し、自己実現へ向けて意欲的に努力したり、自他の向上成長を深く見つめ、考えたりする態度を育てる。
 ・中学校との連携を図り、目標をもって生活する態度を育てる。
 ・5、6年生に中学校の先生が小学校に来校して授業の取組。

生活指導の重点
 ・基本的生活習慣の定着を図るとともに、児童が自ら気付き、考え、判断し、行動し、支えあい、進んで生活を充実、向上させる態度と実践力を育てる。

本校の改善策

指導内容・指導方法の工夫	教育課程上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習、体験活動を取り入れた学習の重視。 ・課題解決、習熟度別学習を取り入れたティームティーチング、少人数指導の推進。 ・自力解決学習と学習感想の重視。 ・読書活動の推進。 ・東京ミニマムの活用。 ・校区別協議会で出された話題を授業改善に活かす。 ・東京ベーシックドリルの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内にある自然を活用した体験学習を年間計画に位置づける。また、全校朝会で各学級ごとに、自然体験を発表する。 ・朝読書、保護者・教員による読み聞かせ、ストーリーテリングの多様な実践を実施する。 ・全学年、外国語（英語）活動を実施。 ・中学校の部活動見学 ・校内での挨拶運動及び、中学校との挨拶運動。 ・月1回のいじめアンケート。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年7回の授業研究を通じた授業力の向上。 ・キャリアプラン等に基づく自主的・自発的研修の活性化。 ・教材研究の重視。 ・長期休業中に4回の職員研修の実施。 ・中学校と互いに研究授業の参観を行う。 ・副校長による教職員全体の服務研修。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさを見付け、よさを伸ばすことで他の力を伸ばす評価計画、評価規準、評価基準の作成等による指導と評価の一体化。 ・自己評価、相互評価の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立（朝食・睡眠等）。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の運動の推進。 ・朝の保護者による本の読み聞かせ。 ・家庭学習や宿題等の工夫。 ・地域の教育力の活用。

平成26年度校内研究 研究主題「自ら学び 考え 解決できる子 ～算数の基礎・基本の定着と活用を目指して～」

<学力調査（全国・都）の結果から以下の2点にも重点として取り組む>

・児童の課題である算数科の「数と計算」「数量関係」の領域に重点をおいた授業改善

・基礎・基本となる四則計算などの反復練習の時間を確保（東京ベーシックドリルを中心に）